



仲野 和彦 先生

略歴

1996年 3月 大阪大学歯学部卒業
1996年 4月 大阪大学歯学部研究生
1996年 6月 大阪大学歯学部附属病院研修医（小児歯科）
1997年 4月 大阪大学歯学部附属病院医員（小児歯科）
2002年11月 大阪大学博士（歯学）
2003年12月 大阪大学歯学部附属病院小児歯科助手
2007年 5月 大阪大学歯学部附属病院小児歯科講師
2011年10月 大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室准教授
2014年 8月 大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室教授（～現在）
2016年 4月 大阪大学副理事（～2017年 8月）
2018年 4月 大阪大学大学院歯学研究科副研究科長（～現在）

日本小児歯科学会常務理事（学術委員長）
日本小児歯科学会近畿地方会副会長
日本小児歯科学会専門医指導医
「感染性心内膜炎予防と治療に関するガイドライン（JCS2017）」班員

口腔細菌が及ぼす全身疾患に対して高効果を狙うセルフケア法の提案

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室
仲野 和彦

歯科領域の二大疾患はう蝕と歯周病であり、それぞれに関連する口腔細菌種の研究が進展しています。さらに、近年の研究結果からは、ある種の口腔細菌が全身疾患に関与することも明確に示されてきています。口腔レンサ球菌種が引き起こす感染性心内膜炎については歯科領域で古くから認知されており、観血的な歯科治療を行う際には抗菌薬による予防投与が推奨されてきました。最近では、観血的な歯科処置以外にも、重度のう蝕や歯周病の病変における毛細血管の露出によって、持続的に菌血症が生じていることも意識されてきています。また、歯周病原性細菌に関しても、糖尿病や動脈硬化をはじめとした様々な全身疾患との関連が明らかにされてきています。本セミナーでは、まず「口腔細菌が及ぼす全身疾患」に関するこれまでの情報を簡単に整理したいと思います。さらに、う蝕原性細菌の関与する脳血管疾患に関して、私たちのグループの最新の研究成果をお示しします。

従来の口腔細菌を制御するアプローチは、う蝕や歯周病を意識してきたものであったと思います。今後は、それに加えてある種の全身疾患の予防や治療も意識されるようになっていくと思われます。口腔細菌のコントロールとしては、診療室で行う専門的なケアが思い浮かびますが、それに加えて日々のセルフケアの実践を推奨することが重要です。特に、口腔細菌が及ぼす全身疾患に対しての効果を考える上では、日常的な菌血症の発生を意識した方法を考えなければなりません。私たちの診療室では、先天的な障がいをもつ成人の患者さんが定期的に来院されますが、セルフケア法として含嗽剤の使用を積極的にお勧めしています。本セミナーでは、当診療室で行っているセルフケアの提案内容の実際と、当教室で検討したコンクールF®の各種口腔細菌への抗菌作用やバイオフィルム形成抑制能についてもお話したいと思います。